



志度高だより 一飛翔の窓一

第112号
(H22.10.15)

「思いつくままに」

この頃は何だかしゃきっとしない。というか、何か満たされない。食べ物に苦情はないし、着るものにも文句はない。物質的欲求はむかしから少ない。それでは何が？ やっぱり生きていくという実感があるかないかだろう。私も歳を重ねてきた。それも理由かな、とも思う。鏡に映る自分の顔を見るに、うん老けたなー、と思うし、走っても乳酸がすぐ溜まる。尿の切れだつて悪い。固い物は食べなくなるし、座骨神経痛は出るわで、もう踏んだり蹴ったりだ。

じゃあ絶望の淵に沈んでいるかといえばそうでもない。仕事に追われて絶望する時間さえない。かえってこれがいいのかもしれない。変に暇だと人間ろくなことがない。まさに「小人閑居して不善をなす」だ。この前も同業者が女性の下着を盗んで処罰されていた。そいつは常々下着に興味を持っていたのか、はたまた暇の悪魔的囁きに屈しその所行に及んだものか。いずれにせよ、私のような凡夫はいらぬ時間ができる不善をなす。だからあえて暇にならないように、自分からなにがしかの仕事を見つけて動くようにしている。貧乏暇なしの典型だ。

ところが、先ほども言ったが歳を取るにつれ、また世のしがらみの多さを知るにつれ、段々と多忙から逃げる自分が肥大していく。「今日は出勤したくないな」と本気で思うことも多い。まるで登校拒否だ、まったく。じゃあ丸一日やるから好きなことしてみろと言われてたら、さて……。

まずは朝のジョギングにちょっとばかりの筋力トレーニング。それからご飯と味噌汁と納豆と野菜とショウガ入り紅茶。これで朝ご飯を済ませると小一時間くらい文章を書く。読書もしたいな。しかし、読書を始めると止まらないので、さしずめ50ページとする。花が好きだから、花の世話もしたい。里山も歩いてみたい。秋を拾うのだ。おっと忘れるところだった。年金犬の散歩だ。やつは最近急速に足腰が衰えたせいか、足取りも蹠蹠として遅々として進まないのだ。やつといると時間を食ってしまう。年金犬の散歩は2、3歩で済ます。これこそ3歩(散歩)だ。でもこれで午前中も残り僅かとなる。後はモネの画集なんかをめぐって芸術鑑賞としゃれこむ。光と影の芸術に身をすべり込ませる。



午後の計画の前にはまず腹ごしらえ。『さぬき麵探偵団』会長としては、昼ご飯は当然うどん。行きつけのうどん屋でいつものようにかけうどんといなり寿司を食べる。腹ごしらえが終わったところで午後のメニューに移る。「志度高だより」の写真も必要だ。さてどこに行くかな。コスモスはまだ咲いてないから、ここは一つ曼珠沙華としよう。おお、もう1時半だぞ。急げっ！ 深紅の付けまつげみたいな花卉にシャッターを押した後はクラシックだ。この時期はショパン、あんパン、メロンパン。『別れの曲』に『ノクターン』、それに『ピアノ協奏曲第2番』……。そんなにたくさん聴けるわけないでしょう。もう2時ですよ。

いよいよリラクゼーションタイムだ。そう温泉だ。近くのカメリア温泉に出かけるか。ジャグジーにサウナ。座骨神経痛が治るかもしれない。再度時計を見る。3時か。3時には小鳥の囀りに耳を傾けながらイギリス流に紅茶にスコーン。空を見上げると、すでに太陽は西に傾いている。ここでアクション映画の出番だ。気に入りの一つ『ザ・ロック』で勝負。ニコラス・ケイジはさて置き、ショーン・コネリーとエド・ハリスの男臭さがたまらない。しゃれっ気のコネリーと男の鎧をかぶったハリス。いいね。残念だがビデオは途中でストップして、次のことにかかる。すでに5時。年金犬の散歩の時間だ。今日は取り込んでいるので、勝手に行つてこい。ワン。何？ 道が分からない？ なら自慢の鼻を使え。



そうこうするうちに『サザエさん』のテーマ曲が聞こえてくる。この曲が聞こえると、あーあ日曜が終わった、と急に暗い気持ちになる。これは私だけの現象ではなく、日本中の人が同じような症候群、『サザエさん』シンドロームにかかっているそう。サザエさんサザエさん……。仕事場が遠く瞬間だ。

道ばたで拾ってきたような夕食を済ませ、アメリカでお世話になった先生に手紙を書く。たまにはご機嫌伺いもしとかなないとね。さて、次は？ おっと大事なことを忘れるところだった。日課の腹筋300回と腕立て伏せ200回。1、2、3、4、……。気が向けばスクワットもやる。夜はなんと言ってもクツワ虫の演奏会。秋だというのにまだクツワ虫が鳴いている。今年は異常発生だ。大挙してじいちゃんの慰問に来てくれたのはいいが、耳はセメントを流し込んだように固まっている。補聴器を入れるにもドリルが必要だ。そんなくだらないこと言う前に次のことだ。ええ次は……。腹式呼吸による英語の音読だ。ピノキオを大きな声で朗々と読む。因みに私はクリケットのジミーのファンなのだ。ジミー、君の山高帽は格好いい。ヒューヒュー。

最後にデザート。えっ！ もう紙面がない。残念ながらここでお別れです。Good-night.